

鈴木一実氏

(株)Ks' SOGO 代表取締役

レジャーホテルの浴室設備は、近年、機能面の充実はもちろん、空間演出のアイテムとしても大きなウエイトを占めつつある。なかでも最近注目を集める、LED照明を使った“光るバスタブ”をメイン製品として取り扱っているのが、今年の5月に設立したばかりの浴槽メーカー(株)Ks' SOGOだ。社長の鈴木一実氏は、地元の建設会社で経験を積んだ後に浴槽メーカーに転職。浴槽の製造、販売、施工、リフォームにいたるさまざまなノウハウを身につけ、満を持して自ら起業。レジャーホテルにおける浴室・浴槽の、オールラウンドなスペシャリストを目指す。

ホテルオーナー様や設計事務所様の信頼できるパートナーになりたいですね



1977年7月静岡県浜松市生まれ。学校を出てすぐに地元建築会社に就職。その後、浴槽メーカー2社の勤務を経て、2016年5月に(株)Ks' SOGOを設立し、代表取締役に就任。家族は妻と子ども4人。

会社名/ (株)Ks' SOGO (ケーズ ソウゴウ)
住所/ 静岡県浜松市中区葵西1-5-5
連絡先/ 053-438-0706
設立/ 2016年5月
業務内容/ 浴槽の製造・販売・施工、浴室リフォーム等

▶ 高品質の国内生産にこだわり
メンテナンス等にも24時間対応

—いまの会社を起業する前はどのようなキャリアを歩んできたのですか。

鈴木 私は静岡県の浜松で生まれ育ちました。学校を出てすぐに地元の建設会社に就職して、26歳になるまで建築現場でバリバリ働いていました。その後、縁あって、ある浴槽メーカーに転職。そこで数年働いた後、地元浜松でレジャーホテル向けに浴槽を製造販売しているYK産業に入社し、8年間働きました。

—そこではどのような仕事をしていたのですか。

鈴木 それまで建築現場などでの経験を積んできたので、浴室リフォームなども担当しました。製造から営業、施工まで、あらゆることを勉強できました。

—そして今年の5月に独立起業を果たしました。

鈴木 以前から自分の会社を持ちたいと思っていましたし、これまでのキャリアの集大成として、Ks' SOGOを設立しました。

—会社の業務内容としては。

鈴木 浴槽の製造・販売のほか、建設業のキャリアを活かし、浴室の空間演出を含めた浴室施工も行ないます。また、浴槽のメンテナンスに関しても、日本全国に協力会社があり、スピーディな対応が可能です。レジャーホテルにおいて、

浴槽のトラブルは一刻を争うケースが少なくありません。ですから弊社は1日24時間、1年365日、いつでも電話対応いたします。

—製品ラインナップは。

鈴木 現時点では、取扱い製品は浴槽に特化しており、自社製造による13アイテムを揃えています。まだ会社設立から間もないこともあり、他社と比べるとやや少ないアイテム数かもしれませんが、浴槽の売れ筋というのはだいたい決まっているので、品質が高く、自信をもってオススメできる製品に絞っています。

ただ将来的には、海外の浴槽メーカーと契約して輸入販売するなどして、お客様の選択肢を徐々に増やしていければと考えています。

—貴社製品のセールスポイントは。

鈴木 従来型のいわゆる“光るバスタブ”は水中照明を浴槽に組み込むタイプのもものが主流でしたが、弊社の主力商品である「ひかり」はLED照明によって浴槽自体を発光させる技術を採用。従来のものとはひと味違った浴室の空間演出が可能で、女性のお客様にも好評です。

また、弊社の製品は100%国内生産にこだわっており、大手メーカーにも負けない品質を誇っています。

—浴槽の素材に人工大理石を使用しているのも大きな特徴ですね。

鈴木 人工大理石は見た目に高級感がありますし、表面がスベスベで肌触りも

いい。そして何より、メンテナンス面のメリットが大きいのです。そもそも人工大理石という素材は水はけがよく、傷がつきにくい。さらには酸性洗剤、アルカリ性洗剤を問わずに使用できるなど、日頃のお手入れがとてもラク。レジャーホテルにおいてはお掃除スタッフの負担軽減にもつながります。

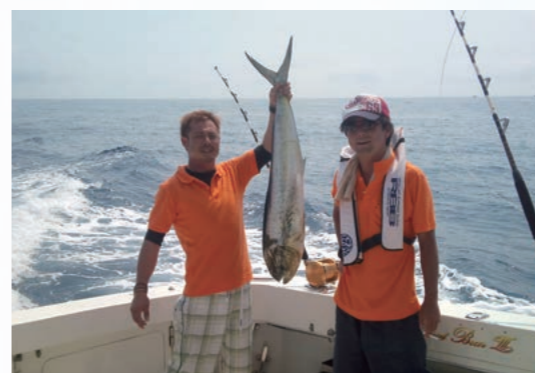
とはいえ、長年使用していればどうしても細かいキズや汚れの付着などは発生してしまいますが、専門の機器で表面を研磨することで、キズや汚れを除去することができます。使用状況にもよりますが、だいたい3～4年に1度程度、研磨のメンテナンスをご依頼いただければ、そのたびにバスタブ導入時の“新品”の輝きを取り戻すことができるのです。

▶ 趣味の釣りも最近のご無沙汰
ただひたすら仕事に専念の毎日

—会社設立直後ということで、忙しくされていると思います。何か健康面で心がけていることは。

鈴木 あまりやっていないんですよ。昔からスポーツに打ち込むタイプではなかったですからね。

唯一の趣味と言えるのが、釣りです。地元・浜松市には浜名湖があり、また太平洋にも面しているので、釣りを楽しむには絶好の環境が揃っています。私も湖沼釣りから磯釣り、船釣りまで、何でもやりますよ。一時期はトローリン



趣味の釣りを楽しむ鈴木社長（写真左）



浜松市民が毎年楽しみにしている「浜松まつり」。なかでも勇壮な「凧揚げ合戦」は大いに盛り上がる

グに凝って、船でカジキを釣りに行ったり、トローリングの大会に出場したこともあり。いままでいちばん大きな獲物は、120～130キロくらいありましたね。

時間があるときは毎週末のように釣りに行っていたのですが、最近は仕事が忙しくなり、また先日、足をケガしてしまったこともあって、なかなか行くことができません。足のケガが完治したら、久しぶりに楽しみたいですし、いずれは自分で船を持ってトローリングをやってみたいという夢ももっています。

—他に何か、プライベートで楽しんでいることはありますか。

鈴木 10代のころからずっと、地元のお祭りに参加してきました。毎年、ゴールデンウィークの3日間にわたって開催される「浜松まつり」です。聞くところによると450年前の江戸時代から始まっ

たとされる歴史ある祭りで、浜松っ子はみんな楽しみにしていますよ。

なかでもいちばん盛り上がるのが「凧揚げ合戦」です。近隣の町ごとに参加し、それぞれに自慢の凧を披露。さらに町同士が凧を戦わせ、お互いの糸を切り合う「糸切り合戦」なども行なわれます。

ただ、これも最近はなかなか参加できなくなってしまいました。

—ご家族は何人ですか。

鈴木 妻と、4人の子どもがいます。女の子が3人、男の子が1人で、いちばん下が小学4年、上はもう高校2年になりました。

—遊び盛り、育ち盛りというわけですね。休日に家族サービスなども行なっていますか。

鈴木 先ほども述べたように弊社は365日体制で、施工やメンテナンスの依頼は土日でも入ってきます。ですから子

どもたちのことや家のことは全部妻にまかせきり。妻には感謝しなければいけませんね。

—それでは最後に、会社の今後の展開や目標などを教えてください。

鈴木 いまはまだ会社規模も小さいですし、ずっとお世話になってきたレジャーホテル業界に特化したかたちで、事業を展開していく予定です。会社も設立したばかりですし、今後さらに認知度を高めながら、レジャーホテルのオーナー様や設計事務所様にとっての“信頼できるパートナー”になれるよう努力していきます。

そして将来的には、ビジネスホテルや旅館にも業容を拡張していきたいですし、チャンスがあれば地元の工務店などと手を組んで、一般家庭用の浴槽も手がけてみたいと思っています。

—本日はありがとうございました。